

# 平成 21 年度 港南区生活支援センター事業報告書

港南区生活支援センターは開所以来、生活支援を中心とした様々なサービスを行い、地域との連携を深め事業の発展に努めてきた。

平成 21 年度は利用者それぞれの目標に合わせて、面接・電話・訪問・自主プログラムなどにおいて個別支援を意識した取り組みを行った。一方これまでに培ってきたネットワークを活かし、地域に向けて障害理解を深める講座や講演会を開催するなど普及・啓発活動を実施した。

以下、21 年度の報告からみえてくる事業の評価と課題を整理し、次年度もさらに発展させていきたい。

## 相談支援

地域の身近な相談窓口として、福祉に関わる幅広い相談に応じ、必要な情報提供や助言を行ってきた。そして面接・電話・訪問などを通じ、利用者の生活及び社会的問題の解決に向けた支援に取り組んでいる。

### <面接>

- ・ 利用者の日常生活における様々な相談(対人関係・生活全般など)に応じている。
- ・ 利用者との定期面接が増加し、職員との信頼関係が築かれるなかで継続的支援が行われるようになってきた。
- ・ 嘱託医相談はセカンドオピニオンとしての役割を果たし、今年度は未治療の家族をもつ方からの相談も増えた。
- ・ 地域の関係機関からのジョブコーチを招き、就労に関する相談を行っている。相談の特徴としては、就労に向けての準備や心構えなどが多い。

### <電話>

- ・ 区内外を問わず地域で生活する方々に安心感を与える役割を果たしている。
- ・ 相談内容は生活や対人関係に関するものが多い。
- ・ 第一次相談機関として幅広く地域の方からの相談に応じている。今後は、より専門領域、及び複雑多岐にわたる相談に対応できるための知識と柔軟性が求められる。

### <訪問・同行・その他>

- ・ 入院中の方が退院後に利用する社会資源として、支援センターを紹介する目的で病院を訪問する機会も増えてきた。
- ・ 福祉施設や相談機関への同行が増えつつあるが、今後も必要があると思われるケースについては積極的に他機関につないでいく役割を果たしていきたい。
- ・ 今後は利用者への周知を積極的に行い、定期的な訪問・同行を増やしていく。その為には勤務の調整を図り、職員が外に出向く体制を整えなければならない。

### <個別支援>

- ・ 個別支援計画書を作成するまでには至っていないが、障害の程度や目標の設定に応じて利用者とは向き合い継続的な支援に繋がるケースも増えてきた。
- ・ 個別支援計画書を利用者の同意を得て作成し、ニーズに応じた支援を行っている。今後は個別支援計画書の存在をより広く利用者に伝え、目標に添った支援をしていきたい。

- ・ センターの利用者は不特定多数で様々な機関につながっている。その為、個別支援が難しいケースもあるが、今後は関係機関と連携し、チームアプローチによる支援方針の統一を図っていきたい。

## 地域活動支援センター

社会経験を十分に得られなかった方が社会参加を目的とするための場の提供、及び利用者ニーズに合わせた各種プログラム・イベントを企画・実施してきた。

### 居場所の提供

- ・ 施設利用については利用案内を渡し、面接室にて生活支援・フリースペースでの過ごし方・有料サービス・個人情報・施設利用の注意事項等を説明している。説明後、未登録者も含めて施設を利用する方には、「施設利用に関する同意書」に氏名・住所・緊急連絡先を記入してもらい、安心した利用への配慮をしている。
- ・ A型生活支援センターの特徴である広さを活かし、静かに過ごしたい利用者や、談話や卓球を楽しみたい利用者の棲み分けができています。
- ・ 個別支援の要否について見極めるためには、オープンスペースを利用して、利用者の心身や生活状況を把握する必要があります。
- ・ 地域関係機関、家族会、ボランティアなど地域の方の利用も増え、利用者との交流の場となっている。

### 就労関連プログラム

#### ① 就労講座

- ・ 年 11 回開催。地域の就労関係機関のジョブコーチによる講座の他、障害者を雇用している企業の方や、働いている当事者による講演を行った。
- ・ 今年度は講座の中に「求人票の見方」「履歴書の書き方」「面接の受け方」など実践的な内容を取り入れた。

#### ② 就労ミーティング

- ・ 年 12 回開催。就労している利用者や就職活動中の利用者で集い、近況を報告するなど情報交換の場に行っている。
- ・ 就労に関する悩みを話し合い、参加者が意見を出し合う事で問題解決を図っている。

### その他

<当センターの年間プログラム>

初詣、新年会、お花見、納涼会、クリスマス会、バスハイク年 2 回、利用者ミーティング、気功教室、ソフトボール交流会、コラージュ体験教室、ハンドマッサージ、ランチ会、お菓子教室ほか季節的なイベント

- ・ パソコン教室は地域ボランティアの力を借りて4年間継続して行なっており、初心者を対象としたわかりやすい内容で好評を得ている。
- ・ 外部からボランティアを招き、イベント・プログラムの参加を通して利用者と地域との交流を図っている。  
(気功教室、ランチ会、お菓子教室、ハンドマッサージ)
- ・ 毎月行なっている利用者ミーティングに加えて、今年度は新たに「支援センターを共に考える会」を立ち上げ、センターの運営や利用者の希望・要望について職員と利用者で話し合う機会とした。
- ・ 「うつのリハビリプログラム」を地域関係機関と連携し3ヵ月にわたり全4回行った。うつ病を患う人を対象とした認知行動療法のプログラムで、医療機関からの紹介により、プログラムが有効と思われる方に限定して

専門性の高いプログラムを提供した。

## サービス提供

支援センターは地域で生活する利用者にとって生活の基本である食事・入浴・洗濯サービス等を提供している。そして、よりよい日常生活を送るための社会資源のひとつとして、適宜活用されている。

- ・ 夕食サービスは、手洗いの徹底や配膳方法の工夫など衛生面に気を配っている。
- ・ センター利用者が夕食サービスの買い物、調理をすることで個人の生活技術の向上に役立っている。
- ・ 支援センターの入浴サービスを日常的に利用する方が増え、また衛生面を意識してもらうよう利用者への働きかけを行なった結果、入浴サービスの一日平均利用者数が著しく増加した。
- ・ インターネットサービスやノートパソコンの貸し出しサービスを利用し、様々な情報収集や就労の準備等に取り組む利用者も多く、社会参加への一手段としての役割を果たしている。
- ・ 利用者アンケートの結果から、夕食及び入浴サービスは利用者の高い評価を得ていることが分かる。

## 地域交流

- ・ 平成 15 年に立ち上げた「港南区精神保健福祉ネットワーク」の事務局を担い、定例会やイベントの開催を通じて「顔の見える関係」が築かれている。その他に地域生活支援会議、港南区障害者団体連絡会、ボランティアグループとの定例会、港南福祉保健センターとの連絡会を通して障害の枠を超えたネットワークを築いている。
- ・ 地域関係機関、ボランティアグループへの施設提供を積極的に行い、交流を深めている。今年度は精神保健ボランティアグループによる昼食会やプログラムも活発に開催され、また関係施設による展示販売や喫茶などを通して利用者や家族が交流する場となった。
- ・ 地域ケアプラザや社会福祉協議会、地域活動ホーム、保育園と合同で年に 2 回交流会を行った。普段接する機会が少ない高齢者、障害者、児童と交流し、お互いを知り、理解に向けての良い機会となった。
- ・ 港南福祉保健センターと合同でバスハイクを実施したり、地域医療機関とのスポーツプログラムを行うなど利用者同士の交流を深めている。
- ・ 地域ボランティアを積極的に受け入れ(パソコン、気功、おしゃべり、調理、ハンドマッサージ)、利用者との交流を図っている。

## 普及・啓発

- ・ 港南福祉保健センター、芹香病院との共催により「うつと社会復帰」というテーマで講演会を開催し、うつの当事者や家族、支援者などおよそ 300 名の方が参加された。
- ・ 近隣施設職員を招いてセンター業務の紹介を行ったり、精神保健ボランティア講座、ケアマネージャー勉強会において、センターの機能や地域に果たす役割について講義した。
- ・ 港南区精神保健福祉ネットワーク主催で「港南ネットまつり」を地域ケアプラザと共催で開催した。21 年度は地域の方々も幅広く参加・協力するなど発展しており、370 名ほどの参加があった。

## 家族支援

- ・ 生活支援事業として「家族のためのSST講座」を21年度は16回開催。また、21年度は新たに「うつの連続講座」を4回開催し、当事者のみならず家族を対象とした講座を実施し、地域の関心の高さを感じた。今後も継続が期待される事業である。
- ・ 講座への参加をきっかけとして支援センターを知ることとなり、そのことが家族への相談支援に結びつくようになってきている。
- ・ 区役所の紹介などで家族の相談に応じ、必要があれば嘱託医相談につないだり、情報提供を行うなどの支援を行っている。

## 当事者活動支援

- ・ 利用者が日常の備品修繕やゴミの分別、衛生業務、夕食サービスの買い物・調理を積極的に行うなど施設運営に関わる活動が増えている。
- ・ 利用者の個々の適性に合わせ、季節行事の企画・準備への参加や運営連絡会での発表など活動の幅が広がっている。
- ・ フリースペースは利用者同士の交流だけでなく、利用者のサークル活動および自発的活動ができる場としても提供されている。

## 地域支援事業

### 家族のための SST 講座

- ・ 前年度に引き続き21年度は16回開催し、延べ200名ほど参加した。
- ・ この講座は毎回完結型セッションで行われ、統合失調症に関する知識と、それらを踏まえた日常生活のコミュニケーション技術が獲得できるように組み立てられている。
- ・ 家族がリフレッシュできる場、気持ちを素直に表現できる場になっている。

### うつの連続講座

- ・ 今年度は新たに「うつの連続講座」を4回開催し、延べ140名ほど参加した。
- ・ うつ病の当事者や家族を対象として、精神科医やうつの当事者、臨床心理士などを講師として招き、「うつ病」の正しい知識や対応について理解を深める講義を実施した。
- ・ 4回目に行った家族の交流会では、家族が抱える様々な問題や課題について意見交換を行い、想いを共有できる場となった。

## その他

- ・ 障害者自立支援法による障害程度区分認定審査会参加
- ・ 福祉職、看護職の実習受け入れ

## 利用実績

	平成 20 年度	平成 21 年度
本人 来館者数	37 人 (1 日)	36 人 (1 日)
電話、面接、 面接非構造・その他	57 件 (1 日)	54 件 (1 日)
訪問・同行	34 件 (年間)	25 件 (年間)
夕食サービス	18 人 (1 日)	16 人 (1 日)
入浴サービス	4 人 (1 日)	6 人 (1 日)

主な地域交流の実績	実施回数	参加人数
港南ネット祭り	1 回	370 人
ぼかぼか (作業所による喫茶)	22 回	589 人
With (ボランティア) カレーの日	7 回	419 人
ソフトボール交流会	7 回	45 人
そよかぜふれあい祭り	1 回	11 人
あおぞら 5 施設交流会	2 回	16 人
うつの講演会	1 回	285 人

主な自主事業の実績	実施回数	参加人数
就労講座	11 回	221 人
就労ミーティング	12 回	92 人
家族 SST	16 回	282 人
パソコン教室	24 回	108 人
コラージュ体験教室	12 回	68 人
利用者ミーティング	12 回	120 人
気功教室	9 回	69 人
うつのリハビリプログラム	4 回	34 人
うつの連続講座	4 回	159 人
納涼会	1 回	55 人
バスハイク	2 回	74 人
ハンドマッサージ	7 回	65 人
クリスマス会	1 回	51 人
新年会	1 回	27 人

## 研修

職員としての専門性向上をめざし、今年度も各種研修に参加するよう努めてきた。今後もより一層の職務充実を目指し、全職員が広く研修に参加していきたい。

研修参加年月日	研修名	研修内容	参加者
平成 21 年 6 月 6 日、 7 日	SST ファーストレベル	SST について講義・演習による知識技術の習得	職員 B
平成 21 年 6 月 19 日	平成 21 年度精神医学研修	気分障害(うつ病)について	職員 C
平成 21 年 7 月 17 日	健康福祉局こころの健康相談センター自殺対策研修	自殺の現状と国の施策 横浜市の取り組み	職員 B
平成 21 年 7 月 16 日、 23 日	社会福祉会計簿記研修会	施設会計及び社会福祉法人会計の基本	職員 B
平成 21 年 7 月 25 日	SST 普及協会南関東支部	中級リーダー研修	職員 E
平成 21 年 8 月 1 日、 2 日、3 日	日本カウンセリング学会 第78回カウンセリング研修会 長野大会	発達障害のアセスメントと支援計画	職員 E
平成 21 年 9 月 28 日、 29 日、10 月 14 日、 15 日、22 日、30 日	平成 21 年度神奈川県相談支援従事者初任者研修	相談支援専門員としての基本 ケアマネジメントの展開 他 演習 他	職員 E
平成 22 年 1 月 21 日	港南区地域生活支援会議連続学習会	知的・精神の障がいをお互に理解しあうための 理解 ①基本的な知識・問題の整理の仕方 方を学ぶ	職員 B 職員 E
平成 22 年 1 月 23 日	平成 21 年度磯子区生活支援センター うつ病家族セミナー	「認知療法」を受けた当事者の体験談	職員 F
平成 22 年 2 月 6 日	横浜メンタルサービスネット研修	面接技法 「認める・肯定することを活かす」	職員 H
平成 22 年 2 月 18 日、 3 月 4 日	上大岡臨床心理センター 認知行動療法	「認知行動療法とは」 ストレスコーピングについての講義と演習	職員 H
平成 22 年 2 月 22 日	障害者就労支援業務従事者研修会	就労支援に活かす認知行動療法～うつ 症状へのアプローチ～	職員 B
平成 22 年 3 月 9 日	こころの電話相談関係機関連絡会研修	対応に苦慮する相談について～パーソ ナリティ障害の方への電話相談～	職員 F 職員 H
平成 22 年 3 月 12 日	生活支援センター連絡会 他障害研修	「アスペルガー障害」について 医師と家族の立場から	職員 E 職員 H
平成 22 年 3 月 17 日	港南区地域生活支援会議連続学習会	知的・精神の障がいをお互に理解しあうための 理解 ②具体的な事例を通し見立て・支 援方法・関わりのポイントについてを学ぶ	職員 B 職員 C 職員 E

## 職務分掌

氏名	取得資格	経験年数 (*1)	担当業務
所長 A	精神保健福祉士 相談支援専門員 社会福祉士	8年	施設運営事務全般、防災管理責任者、金銭出納管理、備品管理、地域ネットワーク、障害程度区分審査会、評議員会、運営連絡会 等
常勤職員 B	精神保健福祉士 相談支援専門員	8年	職員勤務表作成、実習生担当、夕食サービス会計、夕食サービス担当職員分担表作成、地域ネットワーク、うつ支援プログラム
常勤職員 C	精神保健福祉士 相談支援専門員	8年	統計、就労関連事業、衛生業務、余暇支援 ホームページ管理、地域ネットワーク
常勤嘱託職員 D	精神保健福祉士	9ヶ月	入浴・洗濯・インターネットサービス会計、 防災管理、備品/リサイクル品・落し物管理、余暇支援 就労関連事業、地域ネットワーク
非常勤職員 E	社会福祉主事 相談支援専門員	6年	社会生活技能訓練、衛生業務、 消耗品管理、余暇支援
非常勤職員 F	相談支援専門員	3年	社会生活技能訓練、備品管理、統計 その他サービス関係、地域ネットワーク 余暇支援、ホームページ管理、うつ支援プログラム
非常勤職員 G	精神保健福祉士 社会福祉士	1年	衛生業務、余暇支援、嘱託医勤務調整 地域ネットワーク
非常勤アルバイト 職員 H	精神保健福祉士	1年6ヶ月	消耗品管理、余暇支援、備品/リサイクル品・落し物管理

(\*1)経験年数は、平成22年3月31日時点

## 自己評価

横浜市精神障害者生活支援センター条例の設置目的に基づいた管理運営を行い、合格点に達しているものと認識しております。当センターは21年度も地域関係機関と連携しながら、相談支援事業・地域活動支援センター事業を行い、地域交流や普及啓発にも積極的に取り組みました。今後は、施設理解と施設の地域に果たす役割を意識した運営に努めていきたいと考えております。

平成 21 年度

港南区生活支援センター指定管理料決算書

自平成 21 年 4 月 1 日 至平成 22 年 3 月 31 日

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	備 考
人 件 費	( 39,997,000 )	( 37,666,845)	( 2,330,155 )	
施設管理費	( 6,140,000 )	( 5,901,387 )	( 238,613 )	
光熱水費	3,640,000	3,340,599	299,401	ガス・電気・水道
庁舎管理	2,500,000	2,560,788	△ 60,788	
事業運営費	( 2,692,000 )	( 2,622,223 )	( 69,777 )	
旅費交通費	150,000	173,330	△ 23,330	
講師謝金	120,000	120,000	0	
消耗品費	820,000	671,538	148,462	新聞、文具他
印刷製本費	150,000	107,252	42,748	
通信費	216,000	114,860	101,140	切手代、振込手数料他
電話料金	258,000	268,112	△ 10,112	
賃借料	393,000	420,188	△ 27,188	コピーリース料他
備品等購入費	100,000	54,600	45,400	
施設賠償保険	195,000	190,000	5,000	全精社協総合補償制度
研修費	40,000	25,200	14,800	
設備修理費	200,000	421,253	△ 221,253	
諸会費	50,000	35,890	△ 14,110	
雑費	0	20,000	△ 20,000	
入浴サービス等実費徴収額				
光熱水費充当分	(△ 150,000 )	(△ 246,790 )	( 96,790 )	
合 計	48,679,000	45,943,665	2,735,335	

社会福祉法人新生会